

問題 1 (配点 60 点)

(1) の解答例

t は辺の長さを表すので, $t > 0$ でなければならない。

三角形の成立条件より, 最大の辺の長さ $t+2$ が他の 2 辺の長さの和より小さければよいので, $t + (t+1) > t+2$ を整理して $t > 1$ を得る。

(2) の解答例

余弦定理より

$$\cos \angle C = \frac{AC^2 + BC^2 - AB^2}{2AC \cdot BC} = \frac{(t+1)^2 + t^2 - (t+2)^2}{2t(t+1)} = \frac{t^2 - 2t - 3}{2t(t+1)} = \frac{(t-3)(t+1)}{2t(t+1)} = \frac{t-3}{2t}$$

となる。

(3) の解答例

$t > 1$ のとき $\frac{3}{2t}$ は区間 $0 < \frac{3}{2t} < \frac{3}{2}$ の範囲を動くので, $\cos \angle C = \frac{1}{2} - \frac{3}{2t}$ のとり得る範囲は

$\frac{1}{2} > \cos \angle C > \frac{1}{2} - \frac{3}{2} = -1$ となる。

(4) の解答例

$\angle C = 120^\circ$ のとき, $\cos \angle C = -\frac{1}{2}$ であるから, $\frac{t-3}{2t} = -\frac{1}{2}$ より $t = \frac{3}{2}$ である。

また, このとき $\sin \angle C = \frac{\sqrt{3}}{2}$ であるから, $\triangle ABC$ の面積は

$$\frac{1}{2} BC \cdot CA \sin \angle C = \frac{1}{2} \times \frac{3}{2} \times \left(\frac{3}{2} + 1\right) \times \frac{\sqrt{3}}{2} = \frac{15\sqrt{3}}{16}$$

となる。

問題 2 (配点 70 点)

(1) の解答例

$f(x) = ax^3 + bx^2 + cx + d$ ($a \neq 0$) とおくと、条件より

$$x(3ax^2 + 2bx + c) = 3(ax^3 + bx^2 + cx + d) + 2x,$$

$$\text{すなわち, } 3ax^3 + 2bx^2 + cx = 3ax^3 + 3bx^2 + (3c + 2)x + 3d$$

となり、両辺の係数を比較して $b = 0, d = 0$, および $c = 3c + 2$ より $c = -1$, したがって

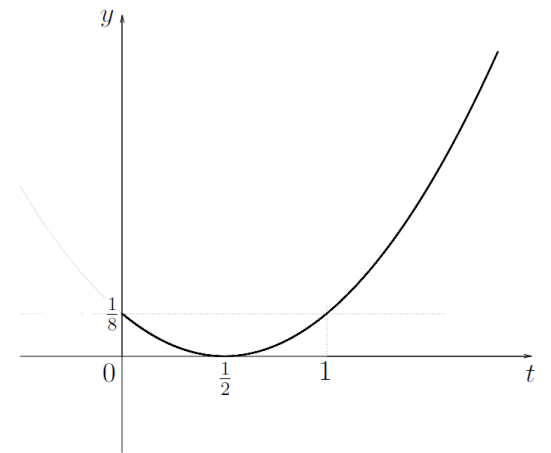
$f(x) = ax^3 - x$ とおけるが、 $f(1) = 1$ より $a - 1 = 1$, よって $a = 2$ となり、 $f(x) = 2x^3 - x$ を得る。

(2) の解答例

$$g(x) = \int_{\frac{\sqrt{2}}{2}}^x (2t^3 - t) dt = \left[\frac{2t^4}{4} - \frac{t^2}{2} \right]_{\frac{\sqrt{2}}{2}}^x = \frac{x^4}{2} - \frac{x^2}{2} - \left\{ \frac{1}{2} \left(\frac{\sqrt{2}}{2} \right)^4 - \frac{1}{2} \left(\frac{\sqrt{2}}{2} \right)^2 \right\} = \frac{x^4}{2} - \frac{x^2}{2} + \frac{1}{8}$$

(3) の解答例 (その 1)

$x^2 = t$ とおくと $g(x) = \frac{t^2}{2} - \frac{t}{2} + \frac{1}{8} = \frac{1}{2} \left(t^2 - t + \frac{1}{4} \right) = \frac{1}{2} \left(t - \frac{1}{2} \right)^2$ となり、
 $y = \frac{1}{2} \left(t - \frac{1}{2} \right)^2$ のグラフをかけば、 $t \geq 0$ に注意して、右図のようになる。



- $k < 0$ のとき、直線 $y = k$ はグラフと交わらないので、 $g(x) = k$ は実数解をもたない。
- $k = 0$ のとき、 $y = k$ は $t = \frac{1}{2}$ でグラフと接するので、 $g(x) = k$ の実数解は $x = \pm \frac{1}{\sqrt{2}}$ の 2 個となる。
- $0 < k < \frac{1}{8}$ のとき、 $y = k$ は $t = t_1, t_2 > 0$ でグラフと交わるので、 $g(x) = k$ の解は $x = \pm\sqrt{t_1}, \pm\sqrt{t_2}$ の 4 個となる。
- $k = \frac{1}{8}$ のとき、 $y = k$ は $t = 0, 1$ でグラフと交わるので、 $g(x) = k$ の解は $x = 0, \pm 1$ の 3 個となる。
- $k > \frac{1}{8}$ のとき、 $y = k$ は $t > 0$ の 1 か所でグラフと交わるので、 $g(x) = k$ の解は $x = \pm\sqrt{t}$ の 2 個となる。

(3) の解答例 (その 2)

$g'(x) = 2x^3 - x = x(\sqrt{2}x - 1)(\sqrt{2}x + 1)$ より、 $g(x)$ の増減表は

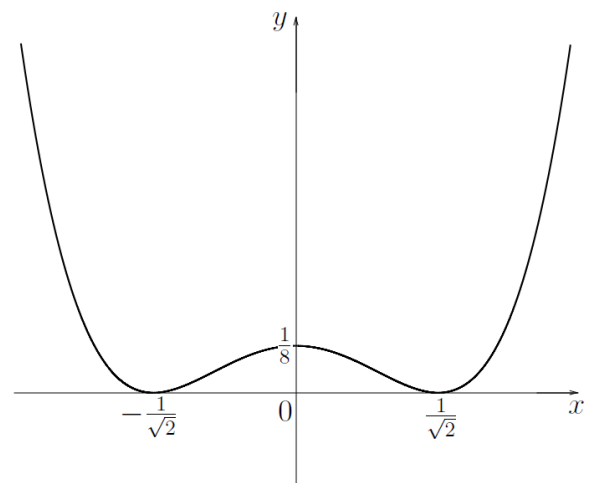
x	...	$-\frac{1}{\sqrt{2}}$...	0	...	$\frac{1}{\sqrt{2}}$...
$g'(x)$	-	0	+	0	-	0	+
$g(x)$	↘	0 (極小)	↗	$\frac{1}{8}$ (極大)	↘	0 (極小)	↗

のようになる。したがって、 $y = g(x)$ のグラフは右図のようになる。

よって、 $y = g(x)$ のグラフと $y = k$ との共有点の個数、すなわち $g(x) = k$ の異なる実数解の個数は

- $k < 0$ のとき 0 個、
- $k = 0$ のとき 2 個、
- $0 < k < \frac{1}{8}$ のとき 4 個、
- $k = \frac{1}{8}$ のとき 3 個、
- $k > \frac{1}{8}$ のとき 2 個

となる。



問題3 (配点70点)

(1) の解答例

\vec{u} と \vec{v} のなす角を θ とする。

$\theta = 90^\circ$ のとき, $\vec{u} \cdot \vec{v} = |\vec{u}| |\vec{v}| \cos 90^\circ = 0$ となる。

逆に, $\vec{u} \cdot \vec{v} = 0$ のとき, $\cos \theta = 0$ となるから, $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ において $\theta = 90^\circ$ である。

(2) の解答例

$\vec{MP} = \vec{OP} - \vec{OM} = s\vec{OA} - \frac{1}{r}\vec{OB} = s\vec{a} - \frac{1}{r}\vec{b}$ となる。

$\vec{AB} = \vec{b} - \vec{a}$ より $\vec{AQ} = t\vec{AB} = t(\vec{b} - \vec{a})$ となる。また, $\vec{PA} = (1-s)\vec{OA} = (1-s)\vec{a}$ である。

ゆえに, $\vec{PQ} = \vec{PA} + \vec{AQ} = (1-s-t)\vec{a} + t\vec{b}$ となる。

(3) の解答例

$\triangle OMP$ は $OM = 1$, $OP = s$, $\angle MOP = 90^\circ$ の直角三角形なので, 三平方の定理より $|\vec{MP}|^2 = 1 + s^2$ となる。

$|\vec{PQ}|^2 = \vec{PQ} \cdot \vec{PQ}$

$$= (1-s-t)^2 |\vec{a}|^2 + 2t(1-s-t) \vec{a} \cdot \vec{b} + t^2 |\vec{b}|^2$$

$$= (1-s-t)^2 + t^2 r^2 \quad (\text{条件から } |\vec{a}|^2 = 1, |\vec{b}|^2 = r^2, \vec{a} \cdot \vec{b} = 0)$$

となる。

(4) の解答例

$\vec{MP} \perp \vec{PQ}$ より $\vec{MP} \cdot \vec{PQ} = 0$ である。ここで,

$$\vec{MP} \cdot \vec{PQ} = \left(s\vec{a} - \frac{1}{r}\vec{b} \right) \cdot \left((1-s-t)\vec{a} + t\vec{b} \right)$$

$$= s(1-s-t) |\vec{a}|^2 + st \vec{a} \cdot \vec{b} - \frac{1}{r}(1-s-t) \vec{b} \cdot \vec{a} - \frac{t}{r} |\vec{b}|^2$$

$$= s(1-s-t) - \frac{t}{r} \cdot r^2 \quad (\text{条件から } |\vec{a}|^2 = 1, |\vec{b}|^2 = r^2, \vec{a} \cdot \vec{b} = \vec{b} \cdot \vec{a} = 0)$$

$$= s(1-s-t) - rt$$

$$= s(1-s) - (s+r)t$$

となり, $t = \frac{s(1-s)}{s+r}$ を得る。

(5) の解答例

$t = \frac{s(1-s)}{s+r}$ のとき, $|\vec{PQ}|^2 = (1-s-t)^2 + t^2 r^2$

$$= \left\{ \frac{r(1-s)}{s+r} \right\}^2 + \left\{ \frac{rs(1-s)}{s+r} \right\}^2$$

$$= (1+s^2) \left\{ \frac{r(1-s)}{s+r} \right\}^2$$

$$= |\vec{MP}|^2 \left\{ \frac{r(1-s)}{s+r} \right\}^2 \text{ であり,}$$

$(s+r) - r(1-s) = s+rs > 0$ と $r(1-s) > 0$ より $0 < \frac{r(1-s)}{s+r} < 1$ なので,

$\frac{MP}{PQ} = \frac{s+r}{r(1-s)} > 1$ を得る。

$\triangle PQM \sim \triangle OAB$ となるには, $\frac{MP}{PQ} = \frac{OB}{OA}$, すなわち $\frac{s+r}{r(1-s)} = r$ を満たせばよい。

左辺の分母を払って $s+r = r^2(1-s)$, よって $s = \frac{r^2-r}{1+r^2}$ である。